I-19

小学校の余裕教室を利用した学童保育施設における子どもの行動特性に関する研究
家具配置による平面分析を通して

A Study on Child's Behavioral Characteristics in a Childcare Facility Using Extra Classroom in Elementary School
An Analysis of Placement of Furnitures

This research conducts arrangement analysis of furniture of childcare facilities using extra classroom at elementary school. We analyzed children's behavioral characteristics by classifing from furniture arrangements. It became clear that the placement of the furniture and the places where children play are related.

○古泉紫帆[1]，　山中新太郎[2]
*Shiho Koizumi[1], Shintaro Yamanaka[2]

1　序論

1－1．研究の背景・目的

近年，共働き・一人親家庭の増加・放課後の安心や安全の確保など，学童保育施設を必要としている家庭は増加し続けているが，待機児童も増え続けているのが現状である．今後さらに学童保育施設の必要性は高まり，小学校の余裕教室等を利用した学童保育施設が増えていくと考えられる．

本研究では，小学校の余裕教室を利用した学童保育施設の家具の配置・特徴から行動特性を分析し類型化を行うことで，家具の配置・特徴の違いによって子ども達の生活がどのように異なっているかを明らかにすることを目的とする．

1－2．既往研究と本研究の位置付け

山田ら[1)]は，学童保育拠点における所要面積の算出に関する試論について述べている．また，宮本ら[2)]は，学童保育施設における活動機能と平面構成について述べている．

このように，学童保育施設の施設対象が広く，余裕教室に着目している研究は少ない．また，平面分析や面積に関する研究はされているが，学童保育施設の児童の行動特性について明らかにしている研究はされていない．

本研究では，家具の配置に着目して子ども達の行動特性について分析を行うものとする．

1－3．研究対象・方法

厚生労働省が提唱する学童保育施設は 2 つの類型に分けられている(Tab. 1)．本研究では，学童保育施設の中でも利用者数が最も増加している余裕教室を利用した放課後児童クラブを研究対象とする．対象地域は，全国の中でも余裕教室の発生室数が 1,905 室と多く，放課後児童クラブへの転用も 175 室[3)]と多い千葉県を対象として調査を行う．

余裕教室を利用している学童保育施設の平図面から家具の配置分析を行う．また，現地調査では子どもの生活の観察調査と指導員からのヒアリング調査を行い，子どもの行動特性についての特徴や課題について分析する．

Tab. 1　学童保育施設の種類
(参考文献[4)]を元に筆者作成)

事業名称	放課後児童育成健全育成事業(放課後児童クラブ)	放課後子ども教室推進事業(放課後子ども教室)
管轄省庁	厚生労働省	文部科学省
目的・対象	保護者が労働等により昼間家庭にいないものに，放課後等に適切な遊びや生活場を提供する事業	全ての子どもを対象として，地域の人々の協力を得て，学習，スポーツ・文化活動，地域住民との交流の機会を提供する事業
開設場所	学校施設(余裕教室，学校内の独立施設)，児童館，学童保育専用施設，公的施設(公民会内，公立保育園内・幼稚園内，その他公的施設内)，私立保育園や社会福祉法人の施設内，民家・アパート，自治会集会所・寺社	小・中学校の学校内

2　学童保育施設の利用実態

2－1．放課後児童クラブの諸室と設備と面積

専用施設と余裕教室を利用した放課後児童クラブの施設内で専用として必要とする諸室と設備の違いを Tab. 2 で示す．余裕教室の必要諸室・設備は教室内に新たに設ける機能で，トイレ・電気・給排水設備・冷暖房設備・避難口・換気・日照や採光は既存のものを使用する．平均床面積とは，全国の学童保育施設における児童 1 人当たりの床面積とする．(厚生労働省による実態調査 2007 年)

1：日大理工・学部・建築　2：日大理工・教員・建築

Tab. 2　放課後児童クラブの必要諸室と設備と面積
（参考文献[5]を元に筆者作成）

	専用施設	余裕教室
必要諸室	生活室・プレイルーム・静養室・事務室・屋外の遊び場	生活室・静養室・事務室
設備	障害児用を含むトイレ・玄関・台所・電気・給排水設備・冷暖房設備・避難口・換気・日照や採光	台所
平均床面積（1人当たり）	2.59 ㎡	2 ㎡

以上のことから，余裕教室は部屋の大きさが小さいため，一般的に要求されている諸室を満たせていない．余裕教室の際は室内での十分な遊び場が確保できないなどの制約が生まれてしまう．

3　家具の配置・特徴と行動特性

3－1．家具の配置・特徴

現地調査を行った千葉県の小学校の中で，S 小学校の余裕教室の内観写真を Fig. 1 に示す．

Fig. 1　S 小学校の内観

生活室・静養室・事務室は教室内に専用で設けなければならないが，十分なスペースがないため静養室が設けられていない．また，事務室も事務机があるだけで，専用で設けられているとは言えない．

教室内の出入り口は 4 つあるが，外につながっている 1 箇所のみが利用できる．そのため，靴箱の設置が必要である．もともと教室内にあった収納に加え，転用した際に新しく収納を増やしている．以上のことは，災害時や掃除の道具，季節ごとの飾りをしまうためのスペースが必要なためである．教室内の机は人数分必要であるため 6 人掛けの机が 6 つ設置されている．必要な家具が多い為，余裕教室の一人当たりの床面積は Tab. 2 では 2 ㎡と示しているが，実際はもっと少ないと考えられる．

3－2．家具配置による行動特性

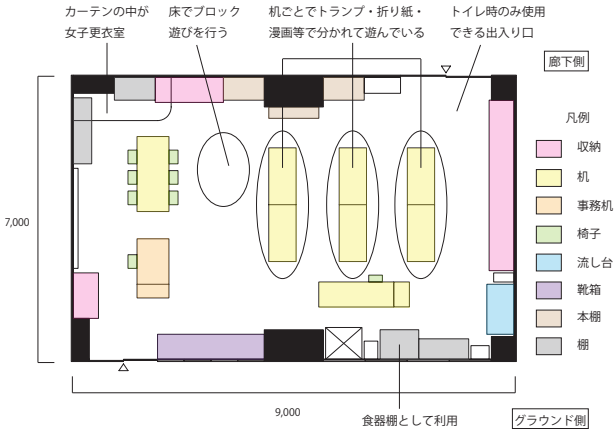

Fig. 2　S 小学校の余裕教室内の平面図
（現地調査をもとに筆者作成）

室内での遊びはトランプ，折り紙，漫画などが多く，遊びは机ごとに分かれて行われている．机の上で行えないブロック遊びなどはスペースのある床に広げて遊んでいるが，十分なスペースとは言えない．また，教室内に家具が多く，走り回って遊ぶことができない．

この学童保育施設は 1 年生～5 年生までいるが，机ごとで遊ぶため学年ごとに分かれず，遊びでグループが分かれており，異学年交流が行われている．

まとめと展望

本研究では千葉県の小学校の余裕教室を利用した学童保育施設の現地調査から以下の考察を行う．

①机の配置が異なることにより遊びの種類や遊ぶ人数が異なると考えられる．子ども達同士の交流が広がり，滞在する場所に違いが生まれると考えられる．

②家具の配置上，子ども達の十分な遊ぶスペースがないことがわかった．家具の配置の変更や机を移動式にすることで安全な空間が作れると感じた．

今後は対象地域の学童保育施設の現地調査を実施し，家具の配置から類型化を行うことで，子どもの行動特性を明らかにする．今後増えていく余裕教室を利用した学童保育施設で，子ども達が過ごしやすい建築計画の知見を得ることを目指したい．

【参考文献】
1)山田あすか，大谷優，倉斗綾子：学童保育拠点における所要面積の算出に関する試論，日本建築学会計画系論文集 2012 年 2 月
2)宮本文人，岩淵千恵子：学童保育施設における活動機能と平面構成，日本建築学会計画系論文集 2007 年 8 月
3)文部科学省「余裕教室の活用状況について(都道府県別)」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2014/03/12/1286096_2（2017 年 8 月 3 日閲覧）
4)厚生労働省 社会保障審議会少子化対策特別支援部会資料「学童保育の目的・役割がしっかりと果たせる制度の確立を(2009 年 7 月 28 日)」
http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/07/dl/s0728-8b_0001（2017 年 9 月 24 日閲覧）
5) 厚生労働省 社会保障審議会少子化対策特別支援部会資料 「学童保育の現状と課題，私たちの願い(2008 年 9 月 18 日)」
http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/09/dl/s0918-11d（2017 年 8 月 3 日閲覧）
Fig. 1：S 小学校の余裕教室の内観写真（2017 年 8 月 15 日筆者撮影）